



# MALAWI VOICE VOL.11

～アフリカの国・マラウイからのおたより～

青年海外協力隊 平成27年度3次隊  
言語聴覚士 飯田知美

## ごあいさつ

2017年になりました。今年もよろしくお願いいたします。1月は長期の停電もあり、おたよりをお休みさせていただきましたが、今後も引き続き情報をお伝えしていきます。青年海外協力隊（長期）の任期は基本的に2年間（延長する場合もあり）と定められています。日本を出国したのが2016年の1月13日でしたので、中間地点を過ぎ、任地に来てからもちょうど一年になります。

少し時期を過ぎてしまいましたが、日本では年末に恒例の「今年の漢字」の発表があります。私の2016年を漢字一文字で表すとすると、「生」です。その理由はまず、マラウイという途上国に来て、最初の壁は衣食住の“生活”でした。普通に“生きる”ことの大変さを実感しました。そして日頃の生活の中で、命の誕生や、反対に死に遭遇する機会がとて多くありました。たった一年の間に、主に病気や不慮の事故によって近所の方や知り合いが亡くなることが多くありました。また、村に遊びに行った際に生まれて間もない赤ちゃんを抱っこさせてもらい、次に遊びに行った時には感染症で亡くなっていたこともありました。ここは、病気になっても近くに病院があり、薬局には薬が常に常備されていて、誰でも先端医療を受けることができる国ではありません。さらに命の誕生場面においても、エイズなどの感染症、低年齢での妊娠出産問題などが現在でも深刻です。命が誕生すること、生きること、死ぬこと。“生”について考えさせられる一年間でした。

また別の理由として、この“生”という漢字は「なま」とも読みます。生卵に生魚…といった大好きな“生もの”はここでは味わうことができませんが、その代わりに日本ではできない貴重な“生の体験”をたくさん味わうことができました。日本でもテレビで見て“疑似体験”できるアフリカの生活ですが、実際に生で体験すると、その全てが想像以上です。肉を食べるために生きている鶏をこの手で殺して裁いたり、バケツ満タンの水を頭に掛けて数百メートルの道のりを運んだり、人々の優しさを日々感じる反面、人種差別的な言葉を浴びせられることもあったり…。楽しい経験、大変だった経験、それぞれたくさんありますが、全てをひっくるめてとても幸せな一年間でした。

マラウイ生活後半戦となる2017年の目標漢字は「感」。2年目になり、新しい発見や感動が少なくなってくると思われます。だからこそ、貴重な経験ができる日々に“感謝”する気持ちを忘れず、たくさんの方に触れてたくさんの方のことを“感じる”一年にしたいと思います。

2017年2月

飯田知美



## 一年間の変化・成長



さて、マラウイに派遣されてから一年間、本当にいろいろな経験や出会いを通じて、自分自身で「変わったなあ」と思うことがいくつかあります。節目のこのタイミングで、この一年間の振り返りの意味も込めて、現時点で私自身が感じている自分の変化についてまとめてみようと思います。

### ①偏食がやや改善された

任地に引っ越してからしばらくの間、なかなかまとめた食事が作れないでいました。その時に生徒が分けてくれた給食やおやつがきっかけで、生徒が口にするものがほとんど何でも食べられるようになりました。特に日本で嫌いだっただ「トウモロコシ」「豆の煮物」「緑の葉野菜」を食べられるようになったことは、自分でも驚きです。人は追いつめられると食の好みが変わるのでしょうか…？

一方、飲み物に関してはあまり変化がなく、相変わらず甘い飲み物、牛乳などが好きで、コーヒー、炭酸飲料、ビールなどは飲めません。紅茶に関しては、砂糖をたくさん入れて、ほとんど砂糖の味になったものは飲めます。さらに、マラウイの調理では塩の使用量が多いので、塩分摂取量は確実に増えています。あまり健康にとって良いことばかりではないようです。

### ②歩くことが“苦痛”ではなくなった

日本にいるころは、とにかく歩くことが嫌いで、「運動」と決まった時間以外は一步も歩きたくないと思っていました。しかし、マラウイに来て、不便な交通事情と日本と異なる景色のおかげで、歩くことが好き…とまではいきませんが、苦痛を感じなくなりました。生徒の家に遊びに行くときは、ミニバスを降りてから片道約1時間歩くこともあります。これは、日本での私の様子を知る人にとっては非常に大きな変化ではないでしょうか。

初めて行く場所は特に、いつもと違う景色を見るのが楽しいです。そして、マラウイアンは知らない人にもあいさつをしたり、話しかけてきます。少しずつ現地語を覚えたことで、簡単な会話をすると喜んでくれたり、子どもがいつの間にか手をつないで一緒に歩いています。



村を歩いていると、時々不思議な生き物に出会います。この鳥は…ホロホロ鳥でしょうか？

### ③自分で直す！

4月に、自宅のコンセント差込口が壊れて電気コンロが使用できなくなる事件が発生しました。その時は、学校の先生に修理を依頼し、「今日か明日直しに行くね」と毎日言われながら、結果的には一か月後に修理してもらいました。しかし、修理を待っている間に別のコンセントも壊れてしまい、家にコンセントが一つしかなくなってしまいました。この時、考えた末、コンセントを外してみ、意外と単純な構造であることに気づき、部品を購入して自力で修理しました。今では、友達の家のコンセントを出張修理することもあります。

また、最近では壊れたラミネーター（紙詰まりと部品の変形）を解体して、元通りとまではいかなくても、普通に使用できるまで修理することができるようになりました。その他、蛇口の取り換え、キーシリンダーの交換、懐中電灯の修理をします。日本でこれらの技術が活かされる日が来るのでしょうか。



コンセントの修理は、もはや10分前後でできます。

#### ④パンゴノパンゴノ（ゆっくりゆっくり、ちょっとずつ）

マラウイアンといえば、のんびり屋さんが多いです。歩く速度、仕事の速度、時間感覚全てにおいてゆっくりなのが特徴です。もともと私もせかせか動くタイプではありませんでしたが、最近生徒に「歩くのが遅くなったね」とよく言われます。おかげで、時間にルーズなマラウイアンに対しても、トラブルばかり起こるミニバスでの移動中も、イライラすることが少なくなりました。

そして、JICA ボランティアの友人と「〇〇時に集合ね！」と約束して、誰もその時間に集まらないことも…。これは良い変化なのかは微妙ですね。

#### ⑤一歩踏み出す勇氣

おたよりの中でも何度かお話ししていますが、私は英語が苦手です。今でも伝えたいことの半分も伝わらないことがほとんどです。この一年、この英語恐怖症に毎日のように苦しめられてきましたが、ここ最近、開き直り（？）始めたのか、めちゃくちゃな文法でも口から発せられるようになりました。現地語も少しずつ覚え、2つの言語が混ざるのも気にせず、ようやく自分から話しかけることが増えました。そして、行ったことのない場所（ホテルや施設）に一人で行って予約をしたり注文をしたり、時にはクレームを言ったり…ができるようになりました。これは私にとっては大きな大きな成長です。

今月から、新たに2名のニュージーランドからのボランティアが来ました。実は以前にも2名のボランティアがいましたが、自分から話しかけることはできず、ほとんど会話のないまま任期を終えて帰国してしまいました。今回は、自分の方が先に活動していたこともあり、“積極的に！”とまでは言いませんが、お互いの文化やマラウイ生活について世間話をしたり、夕食に招待してもらって一緒に食べたりしています。

英語でも、現地語でも、自分が使うようになると、周囲との関係も変わってきました。近所の子どもが名前を聞きに訪ねてきたり、ミニバスの中でも英語で会話が盛り上がることも。「語学が…」と勝手に怯えて壁を作ってしまったのは私の方だったようです。一歩踏み出す勇氣を得て、残り一年、たくさんの出会いを大切にしていきたいと思います。



ニュージーランドからのボランティアの2人。引き続き断水が発生しているので、学校に行く前に井戸の水くみ。



## 12月・1月の活動の様子



11月末と12月の初めには、全ボランティアが首都に集まるイベントがありました。1つは、7月にも実施した「安全対策連絡協議会」で、もう一つが、ボランティアと各ボランティアの同僚が参加する「ボランティア報告会」です。この報告会は、JICA ボランティアの活動や職種の多様性について同僚の方にさせていただくために、数名のボランティアが同僚と共に活動の様子を報告する会でした。イベントから任地に戻ると、学校はテスト週間に突入していて、そのままターム休みに入りました。

配属先の要請内容からは外れますが、12月の活動として二つご紹介します。

### 【MACOHA 見学】

MACOHA とは「Malawi Council for the Handicapped」の略称です。障害児・者やジェンダー差別などに対応する地方の役所になります。今回の見学の目的は、マラウイの福祉のシステムや、各機関が実際にどんな仕事をしているのかを知ることです。幸いなことに、以前マラウイ政府機関はほとんどがブランタイヤという私の任地の近くの大都市にあった関係で、首都がリロングウェに変わった今でも、いくつかの政府系の機関（特に障害福祉関連の機関）の多くが現在もブランタイヤにあります。これから、残りの任期を使って、こういった機関を回って、障害児の早期発見や、障害発見後の受け入れ先の発掘にも携わりたいと考えています。

MACOHA の関連施設に、障害者が職業訓練を受けられる施設（日本の作業所のようなもの）があります。その施設も見学させていただいたので、少し写真を載せています。

### ～ MACOHA（作業所）の見学 ～



この機械の中で、服を染色するそうです。



機織りの機械です。いろいろな種類の障害を持った方が一緒に働いていました。



印刷の原画を作成したり、依頼者のデザインを印刷用の土台に写す作業をしています。この方は難聴者です。上は彼のデザインです。



【生徒宅でのかまど作り】

学校が休みの期間に、生徒の自宅に行って、かまど作りを行ってきました。以前「隊員紹介」をお願いした、コミュニティ開発の佐藤隊員が、違う県まで応援に来てくれました。

～ かまど作り (in ムランジェ) ～



生徒もお手伝い。上の写真はパンガンナイフを使ってわらを細かく切る作業、下は切ったわらとその他の材料を混ぜ合わせる作業です。

この家でも、もともとはマラウイの農村部の家でよく見かける“三ツ石かまど”を使用していました。



遠い所はるばる、指導に来てくれた佐藤隊員。ありがとうございます！

1月は、第2ターム（2学期）の始まり。今回は約2週間の休みだったので、あっという間に新しいタームが始まりました。このターム休みの間に、マラウイ版の「構音検査（チェワ語）」の作成に取り組みました。もちろん、単語を選別や、スペルの確認作業は、現地の先生にお手伝いしてもらいました。そして、使用する絵カードは、絵が得意な生徒たちが手伝ってくれました。

1月は主に、スタンダード1、2（1、2年生）の生徒に対して発音の評価をしました。今後、この結果をもとに、どんな指導をするか、担任の先生と話し合います。

ARTICULATION TEST (CHICHEWA)						NO. 1
NAME:	GENDER: M / F	CLASS: STD	AGE:			
DATE: / /	TERM: 1 <sup>st</sup> / 2 <sup>nd</sup> / 3 <sup>rd</sup>	TESTER:				
bakha	njovu	fisi	bedi	bowa	mperi	
ndege	mtengo	kalulu	chule	foloko	mfuko	
galimoto	njinga	duwa	mbale	lichero	nyumba	
musi	nanazi	papaya	peyala	poto	therere	
tsamba	sefa	mvuwu	supuni	ndowa	tipoti	
chimanga	gwafa	nsomba	mnyamata	mango	khasu	
nkhuku	tsabola	mtsikana	nthiko	kadzidzi	zungu	



～ 活動・生活の様子 ～



構音検査の様子。写真は「ス」の音を出すために、歯と舌ではさんだストローから息を出すことができるかのチェック。



大人の内緒話をマネする低学年の生徒。もちろん聞こえてはいませんが、一つの遊びをとじて楽しんでいます。

日本のNGO団体から、配属先の学校にサッカーボールを寄付していただきました。



第1ターム終了の日の前夜、いつも畑のお手入れ（水やり、草ぬき）を手伝ってくれる生徒へのお礼に、畑の野菜（マスタードリーフ）を給食に寄付しました。いつもおかずは一品のみですが、少しでも豪華になり、とても喜んでくれました。この日は休みの前日ということで、スペシャルメニューの鶏肉の日でした。



クリスマスに発生した大雨・強風被害時の家の前の道路の状況です。我が家はトイレと風呂場でしたが、寝室が被害にあった先生もいました。男子生徒が、被害拡大防止のために、残った屋根に石を乗せる作業を手伝ってくれました。

